

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3391100025		
法人名	有限会社 ふる里		
事業所名	グループホームふる里の家		
所在地	岡山県備前市日生町寒河字梶谷2393-1		
自己評価作成日	平成25年3月12日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_2012_022_kani=true&JigyosyoCd=3391100025-00&PrefCd=33&VersionCd
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ライフサポート		
所在地	岡山市北区南方2丁目13-1 県総合福祉・ボランティア・NPO・会館		
訪問調査日	平成25年3月22日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

事業所の理念でもある「食」に関して特に力を入れています。日生漁港が近くにあり、水揚げされた魚を食材としておいしいぬくもりのある食事の提供に努めています。代表者は「介護食士」の資格を持っており、スタッフの指導にも力を入れ、「食」を主に入居者様の健康の維持に努めています。ふる里の家がご入居様の心のふる里になれるよう、心込めた介護をしています。またスタッフもご入居者様を自分の親のように、また祖父母のように思う心を持ち、互いにチームワークを取りあう思いやりにあふれたメンバーです。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

オーナーの母親が住み慣れた日生沖の島にホームを作りたいと願っていたが、諸事情でその場は叶わず、日生の海が見える小高い場所に開設した。その母親も100歳の誕生日を迎えていた。心身共に不自由さはあるが、職員の暖かい支援によって幸せな100年の歳月を迎えられたのだろう。3年前、現在の管理者が特養ホームに勤務していた社長の身内でもあったので、要請により就任した。そして子息や嫁(計画作成担当者)、ボランティアの支援者の協力を得て、地域密着型のグループホームと言う認知症の人が生活する場を良く理解して利用者の生活する現場でのケアと生活支援を全職員がその趣旨に沿って、明るく笑顔一杯の雰囲気を作って心地良い生活の場をつくった。又、利用者との心の交流もよくできて、利用者・家族の意向を把握し、アセスメント・ケアプラン等周辺のケアマネージメントに関して素晴らしいシステムを作り上げ、それを上手に運用している素晴らしいホームを作りあげた。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	日々目にする所に理念を書いたものを額に入れ掲示し、月1回の勉強会にて理念の朗読を行い、理念の共有に努めています。	“美味しい食事と思いやりの心で和やかな毎日”と“食・心・和”に基づく理念は、生きている事の本質で、代表者の熱い思いの表出である。代表者が折りにふれて職員達に送るメッセージは、共感を持って現場に受け入れられ、日々の支援に反映している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会等への参加をし、交流に努めています。また、施設での行事等あるときは案内を出しています。	ホームは住宅地の中にあり、町内の一員として他の家と同じように町内会に加入している。地域の祭りの神輿や獅子舞がホームに立ち寄り、町内の文化祭には皆で見に行った。「桜咲いたら見に来てね」と近所の人が誘ってくれる等、自然な交流ができています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議や町内会の会合への参加等で、施設について理解していただくよう努めています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	参加者様より頂いた意見は早急に取り入れ、サービスの向上に努めています。 (23・目標計画達成)	利用者・家族・東包括支援センター職員・近隣住民等が参加して、2ヶ月に1回定期的に運営推進会議を開催している。講師を招いての研修や、ホームの行事と同時開催する等、充実した内容の会合になっている。	ホームは年6回の運営推進会議開催を目標達成計画に掲げ、年間計画に沿って早目に日時を決定する等工夫して、多くの人に参加してもらえるよう働き掛けた。課題があれば努力して改善しようとするホームの姿勢を高く評価する。今後も頑張って欲しい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議への参加をお願いし、ほぼ参加していただいております。	備前市のグループホームと、市の連携会議があり、困っている事を相談し合い、互いに情報交換している。東包括サブセンター職員は、ホームの運営推進会議にも出席し、ホームの状況をよく把握している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	勉強会及びミーティング等で理解を深めるようにしています。ご利用者への対応等についてその都度そのケアが身体拘束につながるのではないかと等考えるようにしています。	義歯をいじる行為のある人に対して、マスク着用でそれを阻止するのではなく、随時声掛けをしてマスクを使用せずに対処しようとの話し合いを、職員ミーティング記録で確認した。気がかりはその都度相談しながら、身体拘束をしないケアの実践に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会及びミーティング等で理解を深めるようにしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在ご利用の方がおられないこともあり認識不足であるので、今後勉強会にて認識を深めるよう努めます。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は、十分な説明を行い、入居者様・ご家族様の不安や疑問点には丁寧にお答えするよう努めています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議には、ご入居様・ご家族様への参加の依頼を行い、会議ではご意見ご要望をお聞きするようになっています。またご家族様のご面会時に意見交換や要望を聞きサービスに取り入れるよう努めています。	写真満載のホームのたよりを発行して様子を伝え、何かあればその都度電話連絡して相談し合っている。月々の支払いを現金持参形式にして、定期的面会を促し、会話の機会を持つ工夫もあった。運営推進会議に家族も参加しているので公の発言も場もある。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回全員参加の職員会議を行い、意見交換しており、またなんでもノートで情報伝達しています。	評価訪問時の代表者・管理者との話し合いの場に「勉強になるから同席させたい」との代表者の希望で、若い職員も一緒に参加した。代表者の職員育成への熱意に好感を持った。職員達はそれぞれの特技を発揮してチームワーク良く勤めていた。	素晴らしいマネージメントが出来上がって来たので、日常のケアと共に全職員がマネージメントにも出来るだけ参加し、皆で利用者の生活をより豊かに生きていけるよう結束していってほしい。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	平成24年度より処遇改善加算を算定し、介護職員の処遇改善を行いました。今後も継続する予定にしています。やりがいのある職場づくりを心がけています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修への参加及び資格取得支援に努めています。毎月ミーティング時に施設内研修を開催しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	備前市で開催される介護ネットワークの会議に参加し、意見交換したり、他施設に見学に行ったりしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人のご要望を出来る限りくみ取るよう努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご面会の際には、お茶やコーヒーやお菓子等を提供し、安心してゆっくりとお話できる雰囲気作りを心がけています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	生活暦、経済面等々、相手の立場に沿った支援を心がけています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯、掃除、簡単な調理などできることは職員とともにさせていただくようにしています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様へ外出時の同行の依頼や行事への参加の声かけなど、共に支えていく関係を築いていけるよう努めています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者様に来客がある場合は、一緒に過ごして頂く為、その方にあつた支援をしています。	利用者のAさんとBさんは従兄弟兄弟同士「ほらこれも食べて、しゃんと食べんといかんぞ」BさんにはもうAさんの事が判らなくなっているが、AさんはせっせとBさんの世話をす。管理者・利用者共に地元出身者なので、よく話も通じる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士のみ関係作りは難しくなってきたが、上手く職員が間に入るようにし、良好な関係が保てるように努力しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご家族やご本人の負担にならない程度に行うようにしています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	時間があれば一日5分でも良いからご入居様とマンツーマンで話をしようとして職員に伝えており、ご入居様の気持ちに寄り添い援助できるよう心がけています。 (23・目標計画達成)	起床はゆっくりでいいから、本人のペースに合わせて気持ちを聞きながら対応しようとか、居室の引き出しの中に広告を小さくした物が一杯入っていたが、昔折鶴をしていたからだろうか等、思いや意向を把握しようとする姿勢をミーティング記録で確認できた。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	深く立ち入れない部分もありますが、把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活の中で観察を行い、心身状態や現状の把握に努め、職員全員で情報の共有に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月1回カンファレンスを行い、ケアの見直しを行っています。ご家族の要望もケアプランに反映するようにしています。	「小さい声で話して欲しい」「ひとり暮らしは寂しい」と言う本人の意向と「できるだけ歩行させて欲しい。出来る事は何でもします」と言う家族の意向を軸に、具体的支援に繋げてプランを作成していた。独自の様子を工夫し、すっきり分かり易くてとても良い。	本人・家族の意向をよく聞いて、プランを作成していた。実によく生の言葉を拾い上げ、支援に反映しようとしているのに感心した。これだけ出来ているホームはめったにない。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録の記載を行い、気づきやご本人の様子なども記載しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々のご要望に応じ、対応するよう努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の季節行事には出来るかぎり参加するよう努めています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	いつでも相談できる主治医がおり、月2回往診してもらっています。	基本的には受診介助は家族にお願いしているが、困難な場合はホームでも支援し、日常の様子が判らないからと家族に同行する事もある。救急で搬送する病院も家族に希望を聞いている。かかりつけ医とはよく連携できていて、何かあれば対応してもらえる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	月3回の訪問看護で、不安や疑問点があれば相談しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入退院時の情報交換は蜜に出来るよう、時間の許す限り、入院先の病院へ来院するよう努めています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご本人の状態において、ご家族様と十分な話し合いの場を設けています。	「ここは看取りの施設として立ち上げた。利用者・家族の希望があれば受け止めたい」代表者から職員へのメッセージを記録の中で確認した。ホームは本人・家族の希望に沿って、可能な限り対応したいと考えている。家族からのターミナル支援要望は多く、今年度も看取りを経験している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に研修を行うことで、理解と実践力を養うよう努めています。またマニュアルも定期的に見直しを行っています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	緊急連絡網を掲示しています。また避難訓練を実施しています。	利用者も参加して、消防署の指導も受けながら、昼と夜を想定した避難訓練を実施した。その後全国的な注目を集める施設火災が発生した為、消防署から依頼を受け、地域ぐるみの大掛かりな合同訓練にも参加したので、今年度は計3回避難訓練を行った。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	「利用者が先生」と代表者がいつも職員に伝えており、職員全体で尊重を損ねない対応を心がけています。	「この方は絵が上手だし、几帳面で何でもよく手伝って下さる。職員に誉められ「私はイラじゃから、じっとするのが嫌なだけよ」と謙遜しながらも、Cさんは嬉しそうだった。ホームは利用者の尊厳を守る事を目標達成計画に掲げ、一人ひとりの気持ちを大切に支援を心掛けていた。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	安全に配慮し、出来る限りの支援をしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	希望に添った援助を心がけています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	清潔な身なりでおられるよう、又その人らしく過ごせるように支援しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は季節のものや地元の魚など多く取り入れ、ご入居様にアドバイスをもらい、出来る方には手伝っていただくことがあります。	代表者は食事の重要性をよく認識し、理念にも取り入れ、特に拘りを持って美味しい食事を提供しようとしている。「ここのご飯は美味しい」と利用者は皆ホームの食事に大満足で、食べるのが何よりの楽しみになっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの状態にあった食事の提供に努めています。水分についても十分に摂っていただけるようこまめにアプローチしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯磨きやうがいなど、一人ひとりに応じて支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定期誘導の他に、その人にあった声かけを行っています。	「一寸行ってみようか」「どこへ?」「ええとこ行こう。しっかり歩いてね」と上手に誘って、リハビリ兼ねて手引き歩行でトイレまで誘導する姿を何度も見た。トイレ横が浴室の造りなので、失禁時の対応もスムーズに出来る。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェック表で職員全員が把握して適切に行っています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	大体の曜日を決めています、その日の状態によりご希望に添うように対応しています。	ターミナルまでの支援を視野に入れ、一般浴槽にリフトも設置しているため、重度化しても入浴出来る。「体の油がなくなるから」「風邪ひいてる」入浴拒否だった人も、足浴や清拭で対応しながら、気長に支援するように、足から胸まで入浴出来るようになる等改善事例もある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	安眠や休息はご本人の気持ちに配慮しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの薬の情報を職員全員把握するよう努めています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	役割やより多くの楽しみごとを見出せるよう心がけています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人ひとりに添った外出支援を行っています。法事、墓参り、外食等ご家族と協力して行っています。天気の良い日は外気浴しており、初詣・花見・紅葉狩り等季節の行楽も楽しんでいます。	初詣や花見、紅葉狩り等、時には家族も誘って出掛けたりもしているが、利用者の重度化に伴い、必ずしも全ての人に外出が良いとは限らなくなってきた。「花見は桜の散る頃がいい。ハラハラ舞い落ちる花卉に季節を感じてもらえるから」認知症の特性を良く理解した配慮が嬉しい。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族様と相談の上、現在は所持されている方はおられません。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人のご要望を出来る限りくみ取るよう努めています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	トイレ、お風呂の場所は掲示しています。季節の飾りつけなどしています。	掲示した手作りカレンダーや楽しそうな利用者の写真を、つい立ち止まって見てしまい、話題にさせる工夫がある。「もうつつじの花が咲いているよ」とホーム周辺は自然がいっぱいで、居ながらにして春を実感できる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	こたつで横になったり、ソファに座りくつろいだりすることができます。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に馴染みの品物を持参くださるよう説明しています。	クローゼットとベッドは備え付けで、窓からの眺めもよく明るい感じがする。今は亡き夫の写真や表彰状を飾る人や、椅子やタンス、鏡台などを持ち込む人もいた。入口にはその人の写真を表札のように掲げていた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりに添った環境作りに心がけています。		